

# アズマイチゲ

*Anemone raddeana*

キンポウゲ科



アズマイチゲ

## 名前の由来

アズマは関東地方のことで、とくにこの地方に多いことから由来し、イチゲは1本の茎に花を1個だけつけることからつけられた。

漢字名：東一華

## 形態的特徴

高さ12~20cm。初め茎の上方に軟毛がある。根出葉は二回三出複葉で長い柄を持ち、小葉には鋸歯がある。葉状の苞葉は先が浅く切れ込み、円みのある3枚の小葉に分かれ、だらりと垂れる。花は白色、径3~4cm程で、8~13枚の花

びら状（花弁状）のがく片からなり、茎の先に1個だけつく。



アズマイチゲ



アズマイチゲの花



アズマイチゲの葉。丸みを帯びている。この株は、撮影された年には花をつけなかった

## 類似種と見分け方

キクザキイチゲ、ウラボロイチゲ。

キクザキイチゲとウラボロイチゲの葉は細かく切れ込んで先端はとがるが、アズマイチゲの葉は丸みを帯びる。

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期		■										

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ  
ウ

樹木

草花  
(在来種)

草花  
(外来種)

哺乳類

鳥類  
(水辺)

鳥類  
(草原・樹林)  
ワシ・タカ

## 生育環境・分布

林の中や林縁、草地の日当たりのよい場所などに群生する。落葉広葉樹林の下や林縁に多い。

**分布：**国外分布は、樺太・朝鮮からウスリー地方の温帯。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、林の中や林縁、草地の日当たりのよい場所などに群生する。落葉広葉樹林の下や林縁でよく見られる。



アズマイチゲ。群生している様子。早春、木々が葉をつける前に咲く

## 生活史

開花時期：4月中旬～5月

開花までの年数：不明

寿命：10年以上。多年草。

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。

## 興味深い話

■アズマイチゲの地上部は開花して種をばら撒いた後は枯れて見えなくなってしまうが、地下にある太い根で生き残り、翌年地下の休眠芽から新たな地上部の植物体をつくる。地下の根で10年以上生きるといふ。種子散布の仕組みは特になく、親株の周辺に種が落ちて新たに芽生える。

■アズマイチゲは、エゾエンゴサクやカタクリなどと同じ“スプリング・エフェメラル（春の妖精）”とよばれる植物である。まだ林の樹木が芽吹いていない春先、日のよく当

たる林の下で葉を広げて一斉に花を咲かせる。樹木が芽吹き、林の下に日差しが届かなくなる頃には花を終わらせ、夏には地上部を枯らし休眠状態に入る。



アズマイチゲ

## 配慮事項

主に落葉広葉樹林の下や林縁に生育するため、林全体が重要である。

### 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「日本山野草・樹木生態図鑑」沼田眞 全国農村教育協会 1990

「花のおもしろフィールド図鑑 春」ピッキオ 実業之日本社 2001

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ